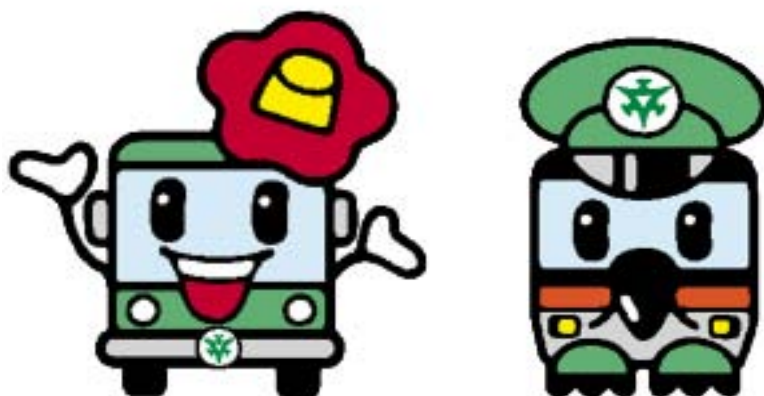


平成18年度

京都市交通事業事務事業評価の 実施結果について



平成19年3月
✚ 京都市交通局

【本書の構成とその内容】

2 市バスの走行環境改善による定時性の確保① …市バスの走行環境を改善し、定時性の確保に努める。					
② 3. 京都府警察との連携	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価 ⑤
	京都府警察本部及び全所轄警察署への要望活動	③ 各1回	各1回	100%	
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	良い
延着時分	④ 30%削減 (14年度比較)	53%削減 (総延着=135時間)	177%		
6. 走行困難箇所の改善	評価対象事業がないため、今年⑥ 評価対象外とする。				

3. 京都府警察との連携

成果	達成	普通	良い
	未達成	⑦悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量は京都府警察本部及び全所轄警察署への要望活動がなされ、目標を達成している。成果である延着時分の削減も目標に達したことから、総合評価は「良い」とする。⑧

6. 走行困難箇所の改善

建設局において走行困難箇所の改善が行⑨、平成16年度で目標を達成しているため、平成17年度評価は実施していない。

【考察】

- 各取組とも、計画どおりの活動が行われている。走行困難箇所の改善以外の取組では延着時分の削減という同一の成果指標を用い⑩おり、個別の活動を着実に取り組むことにより、改善の可能性は高くなっているものと考えられる。

【今後の方向性】

- 延着時分の削減の数値目標は達成しているが、今後についても実績が悪化しないよう、各種取組を継続する。⑪

項目の説明

① 「京都市交通事業アクションプログラム」の事業名と事業内容

② 事業を構成する個別の取組名

③ 活動量指標，活動量目標，活動量実績値，活動量達成度★

交通局が行う取組の進ちよく状況を客観的数値や記号等で表したものの

④ 成果指標，成果目標，成果実績値，成果達成度★

交通局の取組による成果を客観的数値や記号等で表したものの

⑤ 総合評価

活動量達成度と成果達成度を総合的に判断して算出した評価

⑥ 評価対象外の事業

計画上実施時期にきていない事業等や当該年度には評価対象となる事業がないもの

⑦ 達成度イメージ図

評価結果をわかりやすくイメージ図で示したものの

⑧ 評価の根拠

総合評価を行った根拠を示したものの

⑨ 検討状況

評価対象外の事業の現段階での検討状況等を表したものの

⑩ 考察

当該事務事業の評価結果を踏まえ，交通局としての考えを示したものの

⑪ 今後の方向性

平成18年度以降の取組の方向性，事務事業評価に係る改善点などについて交通局としての考えを示したものの

★ 達成度判断基準（3段階評価）

総合評価	活動量達成度	成果達成度
良い	100%以上	100%以上
普通	いずれかが100%以上	
悪い	いずれも100%未満	
	0%	100%以上

アクションプログラム		整理番号	取組項目	総合評価	
事業番号	事業名				
1	路線・ダイヤの改善	1	系統の見直し	普通	
		2	ダイヤの適正化	良い	
2	市バスの走行環境改善による定時性の確保 ※1	3	京都府警察との連携	良い	
		4	バス専用レーン確保のための全市的取組	良い	
		5	走行環境改善のための市民PR	良い	
		6	走行困難箇所の改善	—	
3	運賃制度の改善	(1)乗継抵抗の軽減	7	磁気カード乗車券によるバス・バス、バス・地下鉄割引	良い
			8	通学定期(甲)の全線化	良い
		(2)新規乗車券の検討	9	民間鉄道事業者との企画乗車券(共通フリーチケット等)の設定	普通
			10	コンベンションバスの設定	普通
			11	環境定期券制度の平日への拡大検討	—
			12	エルダーチケットの創設検討	—
			13	ICカードの導入検討	—
3	(3)ICカードの導入検討	13	ICカードの導入検討	—	
4	バス停留所の設置位置の改善	14	バス停留所の設置位置の改善	悪い	
5	IT等の活用による情報提供	15	「ポケット・バスロケ」の機能アップ	普通	
		16	交通局ホームページの充実	良い	
6	案内表示の改善	17	案内表示の改善	普通	
7	バスロケーションシステムの増設	18	バスロケーションシステムの増設	普通	
8	イベントの開催・参加	19	アートパフォーマンス in 山科駅の開催	良い	
		20	「ふれあい区民広場」への参加	良い	
		21	「スルッとKANSAIバスまつり」への参加	良い	
		22	市の事業とのタイアップ	良い	
9	観光客誘致施策との連携 ※2	23	観光客誘致施策との連携	良い	
10	地下鉄構内の有効利用	24	四条駅「ミニ・コンビニ」収益増の取組	良い	
		25	「ミニ・コンビニ」や他の業態による事業展開	良い	
11	オリジナルグッズの企画・販売	26	オリジナルグッズの企画・販売	普通	
12	広告制度のあり方の検討	27	広告制度のあり方の検討	普通	
13	「管理の受委託」の拡大 ※3	28	「管理の受委託」の拡大	良い	
14	総人件費の抑制	29	総人件費の抑制	良い	
15	経費の削減	30	経費の削減	良い	
16	定期観光バス事業の見直し ※4	31	定期観光バス事業の見直し	普通	
		32	観光振興の観点からの交通事業としての取組強化策の検討	良い	
17	「生活交通」(生活支援路線)の確保方策 ※5	33	「生活交通」を確保するための新たな仕組みづくりの取組	良い	
		34	「生活交通」に対する一般会計支援	良い	
18	地下鉄事業の長期収支改善	35	地下鉄事業の長期収支改善	良い	
		36	東西線線路使用料の見直し	良い	
19	職員研修の充実 ※6	(1)職員研修の充実	37	全員研修の実施	良い
			38	実務研修の充実(バス)	普通
			39	実務研修の充実(地下鉄)	良い
			40	基本研修等の充実	良い
			41	能力開発研修の拡充と自主研修の支援	普通
		(2)「目標管理制度」の実施	42	「目標管理制度」の実施	—
20	情報公開と市民理解の推進 ※7	—	—	—	
21	市民とのパートナーシップの推進 ※8	43	「お客様総合相談窓口」(仮称)の開設	良い	
		44	関係NPO組織との懇談	良い	
22	TDM施策の推進	45	「嵐山交通対策研究会」における取組への参加	普通	
		46	「「歩くまち・京都」交通まちづくりプラン」に基づく取組との連携	普通	
23	公共交通の社会基盤整備 ※9	47	道路整備・各種都市計画事業との連携	—	
		48	公共施設等の整備との連携	—	
24	バリアフリー化の推進	49	ノンステップバスの導入	良い	
		50	停留所施設の改善	良い	
		51	地下鉄のバリアフリー化	良い	
25	市バス車両の低公害化	52	低公害車・低燃費車の導入	良い	
		53	黒煙等減少装置の導入	良い	
		54	低公害燃料の使用	良い	
26	地下鉄の安全対策	55	「京都市高速度鉄道防火安全対策委員会」の設置	良い	
		56	車両間転落防止装置の設置(烏丸線)	良い	
27	地下鉄東西線の延伸 ※10	57	地下鉄東西線(二条~天神川間)の延伸	良い	

【昨年度の事務事業評価との変更点】

- ※1 「市バスの走行環境改善による定時性の確保」の「「京都市違法駐車等防止条例」に基づく違法駐車等防止指導員による啓発活動」と「運行管理システムの活用」については、平成16年度で終了したため取組項目から削除している。「走行困難箇所の改善」については平成17年度は対象事業がないため評価対象外とする。
- ※2 「元離宮二条城築城400年祭」など市施設の周年事業との連携については、当該事業が終了したため取組項目から削除している。
- ※3 「管理の受委託」の「横大路営業所の受委託」については、平成16年度で終了したため取組項目から削除している。
- ※4 「定期観光バス事業の見直し」については、平成17年度にサービス向上の取組を行ったため、評価を実施した。（平成17年度評価では評価対象外）
- ※5 「「生活交通」（生活支援路線）の確保方策」の「「生活交通」を確保するための新たな仕組みづくりの取組」については、平成17年度に実証実験の取組を行ったため、評価を実施した。（平成17年度評価では評価対象外）
- ※6 「職員研修の実施」の「「目標管理制度」の実施」については、制度見直し中により対象事業がないため、評価対象外とする。
- ※7 「情報公開と市民理解の推進」の「事務事業評価の実施」と「「京都市交通事業アクションプログラム」の策定及び進行管理」については、どちらも策定済などのため取組項目から削除している。
- ※8 「市民とのパートナーシップの推進」の2事業（「市民モニター制度の実施」と「「お客様満足度調査」の実施」）については、平成16年度で終了したため取組項目から削除している。「「お客様総合相談窓口」（仮称）の開設」については、コールセンター開設に伴う対応状況について評価を実施した。（平成17年度評価では評価対象外）
- ※9 「公共交通の社会基盤整備」の2事業（「道路整備・各種都市計画事業との連携」と「公共施設等の整備との連携」）については、対象事業・対象施設がないため評価対象外とする。
- ※10 「地下鉄東西線の延伸」の「地下鉄東西線（六地蔵～醍醐間）の延伸」については、平成16年度で終了したため取組項目から削除している。

1 路線・ダイヤの改善

…市バス系統及びダイヤについて、利便性の向上及び効率化の観点から市バス系統の見直しを行い、お客様の利用促進を図る。

	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
1. 系統の見直し	運転計画の実施	①無料乗継モデルの改善 ②学校輸送の増強 ③鉄道駅結節の強化	実施	100%	普通
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	市バスの旅客数 (一日あたり)	315,042人/日 (16年度実績値)	307,756人/日	98%	
2. ダイヤの適正化	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	運転計画の実施 (系統のパターン化)	57系統	57系統	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	延着時分 (一日あたり)	30%削減 (14年度比較)	53%削減 (総延着=135時間)	177%	

1. 系統の見直し

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量は目標の3項目を踏まえた運転計画が実施できており、目標を達成している。しかし、成果である市バスの旅客数は、わずかながら目標に達しなかったことから、総合評価は「普通」とする。

2. ダイヤの適正化

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量は運転計画の実施（系統のパターン化）がなされ、目標を達成している。成果である延着時分の削減も目標に達したことから、総合評価は「良い」とする。

【考 察】

- 市バスの旅客数は、17年度からの敬老乗車証の一部負担金制度の導入による減少分を除くと、若干の増となっている。
- 両取組とも成果である市バスの旅客数や延着時分に大きな影響を与えるものであるが、実際には違法駐停車等による走行環境の悪化など、本取組以外の多くの要素から影響を受けることに留意する必要がある。

【今後の方向性】

- 引き続き、鉄道駅の開設などによる旅客需要の変化に応じた系統の見直しや道路交通事情に合わせたダイヤ調整を実施することにより、効率的かつ利便性の高い市バス路線網の構築につなげる。

2 市バスの走行環境改善による定時性の確保

…市バスの走行環境を改善し、定時性の確保に努める。

3. 京都府警察との連携	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	京都府警察本部及び全所轄警察署への要望活動	各1回	各1回	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	延着時分	30%削減 (14年度比較)	53%削減 (総延着=135時間)	177%	
4. バス専用レーン確保のための全市的取組	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	重点モデル事業の実施回数	1回	1回 (平成18年2月26日)	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	延着時分	30%削減 (14年度比較)	53%削減 (総延着=135時間)	177%	
5. 走行環境改善のための市民PR	活動量指標1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	お客様へのご案内と特別警戒の実施回数	2回	春・秋2回 (合計9日間)	100%	良い
	活動量指標2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
	停留所周辺での啓発活動の実施回数	48回	48回 (毎週金曜日)	100%	
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	延着時分	30%削減 (14年度比較)	53%削減 (総延着=135時間)	177%	
6. 走行困難箇所の改善	評価対象事業がないため、今年度は評価対象外とする。				

3. 京都府警察との連携

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量は京都府警察本部及び全所轄警察署への要望活動がなされ、目標を達成している。成果である延着時分の削減も目標に達したことから、総合評価は「良い」とする。

4. バス専用レーン確保のための全市的取組

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量は重点モデル事業の実施がなされ、目標を達成している。成果である延着時分の削減も目標に達したことから、総合評価は「良い」とする。

5. 走行環境改善のための市民PR

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量はお客様へのご案内と特別警戒が実施され、また、停留所周辺での啓発活動も実施され、目標を達成している。成果である延着時分の削減も目標に達したことから、総合評価は「良い」とする。

6. 走行困難箇所の改善

建設局において走行困難箇所の改善が行われ、平成16年度で目標を達成し、平成17年度では対象事業がないため評価対象外としている。

【考察】

- 各取組とも、計画どおりの活動が行われている。各取組では延着時分の削減という同一の成果指標を用いており、個別の活動を着実に取り組むことにより、改善の可能性は高くなっているものと考えられる。

【今後の方向性】

- 延着時分の削減の数値目標は達成しているが、今後についても実績が悪化しないよう、各種取組を継続する。

3 運賃制度の改善

…乗継抵抗の軽減及び新規乗車券の検討により、お客様の利便性を向上させ、利用促進につなげる。

(1) 乗継抵抗の軽減

	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
7. 磁気カード乗車券によるバス・バス、バス・地下鉄割引	乗継割引制度利用者の拡大のための活動	発売場所の拡大	トリアフィカ京カードのバス車内発売開始(平成18年1月7日)	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	乗継割引適用者数(普通券を含む)	8,043人/日(16年度実績値)	9,866人/日	123%	
8. 通学定期券(甲)の全線化	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	制度の創設及びPRの推進	PRの充実	チラシ等の配布(4月に約20大学で実施等)	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	通学定期券(甲)の発売枚数	28,135枚(16年度実績値)	34,991枚	124%	

(2) 新規乗車券の検討

9. 民間鉄道事業者との企画乗車券(共通フリーチケット等)の設定	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	企画乗車券の発売枚数	389,999枚(16年度実績値)	360,038枚	92%	普通
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
企画乗車券の旅客収入	151,148千円(16年度実績値)	155,166千円	103%		
10. コンベンションバスの設定	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	コンベンションバスの周知・PR	京都コンベンションビューローにさらなるPRを依頼	京都コンベンションビューローへの働きかけを実施	100%	普通
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
コンベンションバスを利用していただくコンベンション(会議)の数	4件	2件	50%		
11. 環境定期券制度の平日への拡大検討	実施時期にきていないため、今年度は評価対象外とする。				
12. エルダートicketの創設検討	実施時期にきていないため、今年度は評価対象外とする。				
(3) ICカードの導入検討					
13. ICカードの導入検討	実施時期にきていないため、今年度は評価対象外とする。				

7. 磁気カード乗車券によるバス・バス、バス・地下鉄割引

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量は、乗継割引制度の利用者拡大のため、既に発売しているト
ラフィカ京カード（地下鉄でも利用可能）の発売場所を市バス車内
へ拡大したことにより、目標を達成している。また、成果である乗
継割引適用者数も目標を達成していることから、総合評価は「良い」
とする。

8. 通学定期（甲）の全線化

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量は大学生等を対象とする市バス通学定期券（甲）の全線化の
PRを推進したことにより、目標を達成している。また、成果である
市バス通学定期券（甲）の発売枚数も目標を達成していることか
ら、総合評価は「良い」とする。

9. 民間鉄道事業者との企画乗車券（共通フリーチケット等）の設定

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の企画乗車券の発売枚数については、前年より増加させるこ
とができず目標に達しなかった。しかし、成果である企画乗車券の
旅客収入は目標を達成していることから、総合評価は「普通」とす
る。

10. コンベンションパスの設定

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量はコンベンションパスのさらなる周知・PRを京都コンベン
ションビューローに依頼するため働きかけを行い、目標を達成して
いる。しかし、成果であるコンベンションパスを利用していただく
コンベンション（会議）の数は、目標に達しなかったことから、総
合評価は「普通」とする。

11. 環境定期券制度の平日への拡大（検討）

制度内容の検討段階のため、平成17年度評価は実施していない。
定期券制度全体との整合性を考慮しつつ、引き続き制度のあり方について検討を進める。

12. エルダーチケットの創設検討（検討）

制度内容の検討段階のため、平成17年度評価は実施していない。
敬老乗車制度の有料化実施後の状況を踏まえつつ、引き続き制度のあり方について検討を
進める。

13. ICカードの導入検討（検討）

制度内容の検討段階のため、平成17年度評価は実施していない。
平成19年春からの地下鉄での実施に向けて、準備を進めていく。

【考 察】

- 運賃制度の改善に関する本取組は、お客様の利便性向上に大きく寄与し、旅客数の増加による交通局の増収にもつながり得ることから、経営健全化のために非常に重要な取組である。

【今後の方向性】

- 各取組とも、引き続きPR活動を継続していくことで取組内容を周知していく。
- 新しい乗車券や運賃制度の導入については、お客様のニーズや収益性を見極めつつ、検討を進める。

4 バス停留所の設置位置の改善

…バスと地下鉄との乗継をよりご利用いただきやすくするため、地下鉄駅と結節しているバス停留所等の設置位置を改善する。

14. バス停留所の設置位置の改善	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	設置位置を改善したバス停留所箇所数	3箇所	0箇所	0%	悪い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	乗継割引適用者数 (普通券を含む)	(8,043人/日) (16年度実績値)	(9,866人/日)	(123%)	

14. バス停留所の設置位置の改善

成果	達成	悪い	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量は、目標では設置位置を改善するバス停が3箇所であったが、1箇所も改善できなかった。成果達成度は100%を超えているが、活動量達成度0%のため、総合評価は「悪い」とする。

【考察】

- バス停留所の設置位置の改善は結果的に1箇所も行わなかったが、成果目標は123%の達成となっている。これは、平成17年度について、トラフィカ京カードの発売場所の拡大や案内表示の改善など、他の取組を行ったことにより達成されたものである。
- バス停留所の移設については地元住民の同意を得ることが必要だが、バス走行に対する苦情や、乗客マナーの低下により、同意を得ることが難しくなっている。

【今後の方向性】

- バス停設置位置の変更は、地元住民の同意を得ることが必要であるなど容易ではない。「京都市交通事業第2次アクションプログラム」では、より実現性の高い活動への見直しについても検討し、上屋やベンチの整備を進めるなど、お客様の利便性向上をめざした総合的なバス停留所環境の整備を行っている。

5 IT等の活用による情報提供

…市営交通に関する情報をより入手しやすくすることにより、お客様の利便性向上を図る。

15. 「ポケット・バスロケ」の機能アップ	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	「市バス接近表示器」の稼働数	4基	1基	25%	普通
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
「ポケット・バスロケ」へのアクセス数	31,537件/日 (16年度実績値)	37,837件/日	120%		
16. 交通局ホームページの充実	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	新規作成ページ数	50ページ	57ページ	114%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	トップページへのアクセス数	6,319件/日	7,506件/日	119%	

15. 「ポケット・バスロケ」の機能アップ

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の「市バス接近表示器」の稼働数は、システムの安定性に課題があり、新たな設置ができず目標を達成できなかったが、成果である「ポケット・バスロケ」へのアクセス数は目標を達成していることから、総合評価は「普通」とする。

16. 交通局ホームページの充実

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の新規作成ページ数は、目標を達成している。成果であるトップページへのアクセス数も目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

【考察】

- ホームページに常に新たな情報が提供されることは、アクセス数の増加に大きな影響を与えると考えられる。本取組はお客様の市バス・地下鉄への関心を喚起し、有益な情報を提供することによりお客様の利便性向上と利用促進に大いに貢献するものである。

【今後の方向性】

- 「ポケット・バスロケ」を幅広く活用していくため、増加するアクセスに対応できるサーバへの強化を図るなど、機能を強化していく必要がある。
- 早急にシステムの安定性を改善して、次年度以降の「市バス接近表示器」の設置に向けて取り組む。
- 今後も、質・量ともに充実した魅力あるホームページ作りを通じて、市バス・地下鉄の取組を周知し、お客様の理解を深めるよう努める。

6 案内表示の改善

…案内表示を改善し、利用しやすい案内情報や乗継情報などをお客様に提供する。

	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
17. 案内表示の改善	案内表示の改善箇所数	7箇所 (バスターミナル2箇所 地下鉄駅5箇所)	4箇所 (バスターミナル0箇所 地下鉄駅4箇所)	57%	普通
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	乗継割引適用者数 (普通券を含む)	8,043人/日 (16年度実績値)	9,866人/日	123%	

17. 案内表示の改善

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の案内表示の改善箇所数は、バスターミナル・地下鉄駅ともに目標に達しなかった。しかし、成果である乗継割引適用者数については目標を達成していることから、総合評価は「普通」とする。

【考 察】

- 観光客をはじめ、京都に馴染みのない方にとって、駅などにおける案内表示は極めて重要である。活動量目標を達成するため積極的な取組が必要である。

【今後の方向性】

- 引き続き、市バスの各ターミナルや、主要バス停留所の標識柱に設置する案内表示を改善するとともに、地下鉄駅の乗継案内などの取組も充実していく。

7 バスロケーションシステムの増設

…バスロケーションシステムの設置を推進することにより、お客様の利便性を向上させるとともに旅客数の増加を図る。

18. バスロケーションシステムの増設	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	バスロケーションシステムを設置したバス停留所箇所数	8箇所	8箇所	100%	普通
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
市バスの旅客数（一日あたり）	315,042人/日（16年度実績値）	307,756人/日	98%		

18. バスロケーションシステムの増設

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量のバスロケーションシステムを設置したバス停留所箇所数は、目標を達成している。しかし、成果である一日あたり市バスの旅客数は、わずかながら目標に達しなかったことから、総合評価は「普通」とする。

【考察】

- バスロケーションシステムは、お客様にバスの接近情報をリアルタイムでお知らせするもので、増設することにより、お客様の利便性向上及び利用促進に大きく寄与するものである。
- 成果の「市バスの旅客数（一日あたり）」は、バスロケーションシステムの増設だけによって達成できるのではなく、交通局の他の利用促進策や京都市の観光客誘致施策などが相まって得られるものであることに留意する必要がある。

【今後の方向性】

- より多くのお客様にご利用いただけるよう、今後ともバス停留所へのバスロケーションシステムの設置を進める。

8 イベントの開催・参加

…イベントの開催・参加を通じて、親しみやすい市営交通をPRし、旅客誘致を図る。

	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
19. アートパフォーマンスin山科駅の開催	事業PRの実施	多様な媒体を利用した出演者の募集	幅広く出演者を募集(3媒体で募集)	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	市民の出演者の確保	年間12組	年間12組	100%	
20. 「ふれあい区民広場」への参加	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	年間参加回数	年間2回参加	年間2回参加	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
交通局ブースへの来場者数	200名以上	200名以上	100%		
21. 「スルッとKANSAIバスまつり」への参加	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	「スルッとKANSAIバスまつり」への参加	毎年1回参加	1回	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
「スルッとKANSAIバスまつり」の来場者数	3万人	3万5千人	117%		
22. 市の事業とのタイアップ	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	タイアップ事業数	2事業	2事業	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	花灯路事業の来場者数	1,055千人(16年度実績値)	1,671千人	158%	

19. アートパフォーマンスin山科駅の開催

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量は、アートパフォーマンスin山科駅の出演者を市民しんぶんやホームページを利用して幅広く募集し、目標を達成している。成果である市民の出演者の確保は、12回の開催日全てに出演者を確保し目標を達したことから、総合評価は「良い」とする。

20. 「ふれあい区民広場」への参加

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の「ふれあい区民広場」への参加は、目標を達成している。成果である交通局ブースへの来場者数も目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

21. 「スルッとKANSAIバスまつり」への参加

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の「スルッとKANSAIバスまつり」については、神戸市で行われたものに参加したことから目標を達成している。成果であるその際の「スルッとKANSAIバスまつり」の来場者数も目標に達していることから、総合評価は「良い」とする。

22. 市の事業とのタイアップ

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量のタイアップ事業数は、NHK大河ドラマ関連のPR事業、花灯路事業の2事業であり、目標を達成している。成果である花灯路事業の来場者数も嵐山及び東山と事業が2回実施され目標を大きく上回ったことから、総合評価は「良い」とする。

【考察】

- 各種イベントへの参加は、お客様に直接市バス・地下鉄をPRできる絶好の機会であり、利用者の増加につながるものである。
- イベントに関する成果指標の設定については、概算値や特定事業の数値など、必ずしも客観的な数字に基づくものでないことに留意する必要がある。

【今後の方向性】

- 更なるお客様の増加につなげるため、各種イベントに引き続き参加するとともに、その内容の充実にも寄与していく。

9 観光客誘致施策との連携

…全市的な観光客誘致施策と連携し、さらなる観光客の誘致に寄与する。

23. 観光客誘致施策との連携	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	年間参加会議体数	5会議体	5会議体	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	年間入洛観光客数	4,554万人 (16年度実績値)	4,727万人	104%	

23. 観光客誘致施策との連携

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の年間参加会議体数は、目標を達成している。成果である年間入洛観光客数も目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

【考察】

- 観光客誘致施策と連携については、各会議体に積極的に参画し、観光客の誘致行動を共同で推進しており、観光客誘致につながっている。
- 京都市への観光客数自体は、交通局の参加会議体による誘致活動以外にも、京都市の観光客誘致施策や交通局の他の利用促進策などが相まって得られた成果であることに留意する必要がある。

【今後の方向性】

- 観光客誘致関連の会議に参加し、情報発信などを行うことにより、年間入洛観光客数の増加に向けて、積極的な取組を進めていく。
- 観光客の誘致施策との連携が、市バス・地下鉄のお客様の増加につながるよう利用促進等の充実を図る。

10 地下鉄構内の有効利用

…既存の地下鉄駅施設・構内空間を利用して新たな事業を展開することにより、地下鉄利用のお客様への利便性向上に努めるとともに、増収を図る。

	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
24. 四条駅「ミニ・コンビニ」収益増の取組	経営状況のチェック、売上増取組の実施（取扱い品目の見直し等）	月1回の売上チェックの実施、ニーズの高い商品への入れ替え	売上チェック、ニーズの高い商品への入れ替え実施	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	四条駅「ミニ・コンビニ」からの営業料収入	500万円	552万円	110%	
25. 「ミニ・コンビニ」や他の業態による事業展開	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	店舗等による事業展開	「店舗」以外の業態を含む有効利用策の決定	北大路駅「ミニ・コンビニ」出店方針決定	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	四条駅「ミニ・コンビニ」以外の店舗からの営業料収入	800万円	826万円	103%	

24. 四条駅「ミニ・コンビニ」収益増の取組

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の「経営状況のチェック、売上増取組の実施（取扱い品目の見直し等）」は、目標を達成している。成果である四条駅「ミニ・コンビニ」からの営業料収入も目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

25. 「ミニ・コンビニ」や他の業態による事業展開

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の店舗等による事業展開は、北大路駅ミニ・コンビニ出店方針を決定し、目標を達成している。成果である四条駅「ミニ・コンビニ」以外の店舗（フレッシュジューススタンド）からの営業料収入も目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

【考察】

- 「ミニ・コンビニ」については毎年着実に営業料収入を伸ばしている。加えて、平成16年度に京都駅に出店した「フレッシュジューススタンド」の営業料収入についても目標を上回っている。これらは、交通局の収入増のみならず、お客様の利便性向上につながっている。

【今後の方向性】

- 平成17年度に出店方針を決定した北大路駅ミニ・コンビニ店の出店に向けて取り組むとともに、今後とも、乗降客の多い駅を中心に、店舗展開等を図っていく。

11 オリジナルグッズの企画・販売

…オリジナルグッズの企画・販売を通じて親しみやすい市営交通をPRし、旅客誘致を図る。

26. オリジナルグッズの企画・販売	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	発売したオリジナルグッズの種類	2種類	2種類	100%	普通
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	オリジナルグッズ年度内販売率	100%	75%	75%	

26. オリジナルグッズの企画・販売

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の発売したオリジナルグッズの種類は、目標を達成している。しかし、成果であるオリジナルグッズの年度内販売率については、100%の目標に達しなかったことから、総合評価は「普通」とする。

【考 察】

- オリジナルグッズの企画・販売は、市バス・地下鉄のイメージアップになると同時に、商品発売による直接的な収入を伴うことから、積極的な販売促進策を講じていく。

【今後の方向性】

- 市バス・地下鉄のブランドイメージの定着と収益向上を両立させるべく、マーケティングの精度を高め、引き続き、需要に見合った適切なグッズの作成と販売に取り組む。

12 広告制度のあり方の検討

…市バス・地下鉄の広告料収入の減少傾向に歯止めをかけ、さらなる増収を図る。

27. 広告制度のあり方の検討	活動量指標1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	電照式看板枠の空枠対策	協議会3回 実態調査1回	協議会2回 実態調査1回	75%	普通
	活動量指標2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
	ラッピングバスの導入台数	50台	42台	84%	
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	市バス・地下鉄の広告料収入の増加	942百万円 (計画値)	1,012百万円	107%	

27. 広告制度のあり方の検討

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の電照式看板枠の空枠対策、ラッピングバスの導入台数はともに目標に達しなかった。しかし、成果である市バス・地下鉄の広告料収入の増加は目標を達成していることから、総合評価は「普通」とする。

【考察】

- 広告料収入を増加させることは、交通局の収入増に直結するものである。特に電照式看板の空枠対策については、「複数一括契約割引キャンペーン」を平成17年4月1日から実施しており、空枠の減少と収入増加につながったと考えられる
- 広告料収入の増減については、電照式看板の空枠対策やラッピングバスの導入だけでなく、市バス車内広告や地下鉄車内の中吊り広告など、他の広告媒体からの影響が大きいことにも留意する必要がある。

【今後の方向性】

- 電照式看板の「複数一括契約割引キャンペーン」により、空枠を減少させることができたが、新たな販売促進策を講じることで広告料収入のさらなる増加に結びつけていく。
- ラッピングバスについては、新規広告媒体として増収効果が高いものであるが、その実施にあたっては、京都の美観を損ねることがないように、京都市美観風致審議会へ諮りながら、条例上での限度である「所有バス台数の1割程度」を目指す。
- より多くの方に市バス・地下鉄の広告を利用していただくため、「京都市交通事業第2次アクションプログラム」で定めた広告料収入増対策の実施に向けて、広告販売促進チームの立ち上げや広告パンフレットの制作、交通局ホームページでの案内の充実など、広告の販路拡大に向けた新たな取組を行っていく。

13 「管理の受委託」の拡大

…市バスの運行について、京都市が路線・運賃等の決定に責任を負う公営としての長所を活かしながら、民営並みの低コストでの運営を行い、事業の効率化を図る。

28. 「管理の受委託」の拡大	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	バス運行業務の委託	梅津営業所の一部	梅津営業所の一部	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	委託系統の使用車両数	62両	62両	100%	

28. 「管理の受委託」の拡大

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量については、梅津営業所の一部を委託することとしており、目標を達成している。成果である委託車両数についても、目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

【考 察】

- 管理の受委託については、横大路営業所において、平成12年3月に公営バス事業者として初めて管理の受委託を実施した後、平成16年3月に洛西営業所、平成17年3月に九条営業所の一部、平成18年3月に梅津営業所の一部を委託しており、着実に委託規模を拡大している。
- 委託による経費削減効果は非常に大きく、交通局の経営健全化に向けた取組の大きな柱である。

【今後の方向性】

- 交通局として、路線、ダイヤ、運賃等の決定に責任を持ちつつ、経費の削減を推進していくためには、管理の受委託が最善の方策と考えており、引き続き、事業規模（所有バスの台数）の2分の1までの委託拡大に向けて、一層取組を推進していく。
- 2分の1までの委託拡大に要する期間についても、平成20年度までに委託を完了する年次計画を1年早め、平成19年度までに（平成19年3月委託実施予定）西賀茂営業所の一部を委託し、一層の効率化を図っていく。

14 総人件費の抑制

…総人件費を抑制することで経営健全化を図り、交通事業者として市民の足を守る。

29. 総人件費の抑制	活動量指標1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	給与等の3%以上の減額	管理職一人あたり 年30万円 (総額0.4億円)	30万円 (総額0.4億円)	100%	良い
	活動量指標2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
	特殊勤務手当の廃止を中心とした見直し	年一人あたり 14万円 (総額2.2億円)	14万円 (総額1.9億円)	100%	
	活動量指標3	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
	休日勤務手当の解消	年一人あたり 14万円 (総額2.1億円)	14万円 (総額2.1億円)	100%	
	活動量指標4	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
	超過勤務手当の縮減	年一人あたり 20万円 (総額2.9億円)	21万円 (総額3.2億円)	105%	
	活動量指標5	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
	企業職給料表第5適用者の初任給引下げ	0.5億円	1.0億円	200%	
	活動量指標6	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
	非常勤嘱託員の報酬月額引下げ	0.7億円	1.0億円	143%	
	活動量指標7	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
	職員数の削減	11.4億円	11.8億円	104%	
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
総人件費の縮減割合 (対14年度比, %)	対14年度比80%	対14年度比78% (155億円)	110%		

29. 総人件費の抑制

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の7つの指標は、すべて目標を達成している。成果である総人件費の縮減割合も目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

【考 察】

- 職員数の削減をはじめ、各取組とも計画どおりに実施され、成果目標を上回る人件費の削減ができていることから、交通局全体の経営健全化に大きく寄与している。

【今後の方向性】

- 引き続き、事業再生計画である「京都市交通事業ルネッサンスプラン」や、その年次行動計画である「京都市交通事業第2次アクションプログラム」で示された人件費削減策を推進していく。

15 経費の削減

…市バス・地下鉄事業において、最小の経費で最良のサービスを提供すべく、経費削減の取組強化に努める。

30. 経費の削減	活動量指標1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	経費の削減額	453百万円 (年次計画値)	781百万円 (バス307百万円 地下鉄474百万円)	172%	良い
	活動量指標2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
	経理システムの再構築による執行管理の効率化	システムの更新	システムの更新	100%	
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	平成14年度予算に対する削減率	対14年度予算比 6%削減	9%削減	150%	

30. 経費の削減

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の経費の削減額と、経理システムの再構築による執行管理の効率化については、システムを更新し目標を達成している。成果である平成14年度予算に対する削減率も目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

【考察】

- 目標を上回る大幅な経費削減を達成しており、交通局の財政健全化に大きく寄与している。

【今後の方向性】

- 今後も積極的に経費削減に努め、交通局全体の経営健全化を推進していく。
- 平成17年度に更新した経理システムを活用し、より一層の執行の効率化を目指す。

16 定期観光バス事業の見直し

…観光客のニーズにあった定期観光バス事業の運営方法を検討するとともに、観光振興の取組強化策を検討する。

31. 定期観光バス事業の見直し	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	観光客のニーズにあったコースの開発	2コースの拡充	2コース	100%	普通
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
定期観光バスの旅客数	34,035人 (16年度実績値)	31,459人	92.4%		
32. 観光振興の観点からの交通事業としての取組強化策の検討	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	「洛バス」の活用	利便性向上策の推進	パンフレットの配布等	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
「洛バス」の旅客数 (一日あたり)	7,517人 (16年度実績値)	8,251人	110%		

31. 定期観光バス事業の見直し

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の観光客のニーズにあったコースの開発については、昼食選択コースを2コース設定し目標を達成している。しかし、成果である定期観光バス旅客数については前年度よりも旅客数が減少し、目標を達成できなかったことから、総合評価は「普通」とする。

32. 観光振興の観点からの交通事業としての取組強化策の検討

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の「洛バス」の利便性向上策の推進については、目標を達成している。成果である「洛バス」の旅客数も、平成16年度（運行開始後）の一日あたりの旅客数を上回り目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

【考 察】

- 「洛バス」については、「洛バスマップ」の配布などPRを継続実施し、外国人をはじめとする観光客の利便性向上につながっている。

【今後の方向性】

- 京都市が掲げる「5,000万人観光都市・京都」の実現に向け、「洛バス」や定期観光バスが観光客にとってより便利で快適なものとなるよう利用促進策を検討していく。
- 定期観光バスについては、京阪バスと提携を図り、京都ならではの歴史、文化を活かした魅力的なコースを設定するなど、更なる内容の充実に取り組み、効果的なPRを行い、積極的に増客を図る。

17 「生活交通」(生活支援路線)の確保方策

…市バス系統において、運営コストを民営並みに縮減したとしても、収支が赤字となる系統である「生活交通」(生活支援路線)について、市民生活の一定の水準を保障するため、「規制緩和」の実施に対応した系統の維持を図る。

	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
33. 「生活交通」を確保するための新たな仕組みづくりの取組	小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験によるコスト	実験前のコストの2億42百万円を下回ること	1億76百万円	138%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	収支改善効果	収支額△1億46百万円を改善	△1億18百万円に改善	124%	
	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
34. 「生活交通」に対する一般会計支援	一般会計からの財政支援を確保するための理財局への要求活動	要求活動の実施	予算化に向けた要求活動の実施	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	民営並コストでも赤字となる系統に対する財政補填率	補填率100%	100% (1,121百万円)	100%	

3.3. 「生活交通」を確保するための新たな仕組みづくりの取組

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量は、「生活交通」を将来に渡って維持していくための方策として、平成17年7月から「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」を6路線で開始し、コスト削減を図り目標を達成している。成果である収支改善効果についても、コスト削減とお客様の利用の増加により28百万円改善し目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

3.4. 「生活交通」に対する一般会計支援

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の一般会計からの財政支援を確保するための理財局への要求活動は、目標を達成している。成果である民営並コストでも赤字となる系統に対する財政補填率も目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

【考察】

- 生活交通を守るための取組として、市長の諮問機関である「京都のバス事業を考える会」の答申を受け、平成17年7月から「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」を開始している。
- 一般会計から引き続き支援を得られたことは、生活支援路線の維持に向けて非常に有効な取組であったといえる。

- 生活支援路線を維持するための新たな仕組みを構築することは、極めて重要な課題であり、交通局をあげて取り組む必要がある。

【今後の方向性】

- 市の一般会計に対し、生活支援路線に対する財政支援を継続して要望していく。
- 平成17年度から実施している「小型バス・ジャンボタクシー・代替モデル実証実験」を継続し、効率的・効果的に確保していく方策について検討を進めていく。
- 平成17年度の実験を踏まえ、平成18年度の実験では鉄道駅への接続など経路の変更やダイヤの調整を行っている。

18 地下鉄事業の長期収支改善

…地下鉄事業の不良債務について、東西線延伸後概ね47年以内に解消することを目指し、長期収支の改善に努める。

35. 地下鉄事業の長期収支改善	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	地下鉄事業経営健全化計画に基づく償却前損益		△9,208百万円	△8,070百万円	114%
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度		
経常損益における収支率	55.8%	55.9%	100%		
36. 東西線線路使用料の見直し	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	東西線(御陵～三条京阪)線路使用料の削減額	11億円(計画値)	11億円	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
東西線線路使用料の削減率	16.7%	16.7%	100%		

35. 地下鉄事業の長期収支改善

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の地下鉄事業経営健全化計画に基づく償却前損益は、目標を達成した。成果である経常損益における収支率も目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

36. 東西線線路使用料の見直し

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の東西線(御陵～三条京阪)線路使用料の削減額は、目標を達成している。成果である線路使用料の削減率も目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

【考察】

- 本取組は、地下鉄事業の不良債務を解消し、交通局の経営健全化を推進していくための中心的な取組であり、将来にわたり、安定的かつ持続可能な地下鉄の経営を確保するために必要不可欠なものである。
- 平成17年度には、地下鉄運賃改定を実施した。実施に際しては、新たに地下鉄の駅業務の一部を民間委託化するなど更なる経営健全化の努力や一般会計からの利用者負担緩和支援を受けることにより、計画で見込んでいた10%の改定率を7.4%に抑制した。

【今後の方向性】

- 地下鉄事業経営健全化計画で定めている、地下鉄事業の健全化、一般会計からの出資金の確保及び地下鉄運賃改定の計画的な実施などを着実に推進し、地下鉄事業の長期収支の改善を図っていく。

19 職員研修の充実

…職員に対し研修と目標設定等を行うことで意識改革を図り、経営感覚に優れ、お客様ニーズに対応できるような交通局職員及び管理職員を育成する。

(1) 職員研修の充実

37. 全員研修の実施	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	所属研修の実施回数	85回	85回	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	所属研修の受講率	全対象者(2,085人)への実施(受講率100%)	2,085人	100%	
38. 実務研修の充実(バス)	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	市バス運転士セミナー、事故防止研修の実施回数	68回	69回	101%	普通
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	優秀職員モニター制度における接遇状況「優」の占める割合	16.0% (16年度実績値)	13.7%	86%	
39. 実務研修の充実(地下鉄)	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	地下鉄定期教育訓練の実施回数	83回	123回	148%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	優秀職員モニター制度における接遇状況「優」の占める割合	20.7% (16年度実績値)	21.9%	106%	
40. 基本研修等の充実	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	基本研修の実施回数	7回	7回	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	対象職員の受講率	全対象者(66人)への実施(受講率100%)	66人	100%	
41. 能力開発研修の拡充と自主研修の支援	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	能力開発研修及び自主研修の講座設定数	20講座	21講座	105%	普通
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	能力開発研修及び自主研修の講座受講率	20講座	16講座	80%	
(2) 「目標管理制度」の実施					
42. 「目標管理制度」の実施	評価対象事業がないため、今年度は評価対象外とする。				

37. 全員研修の実施

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の所属研修の実施回数は、目標を達成している。成果である所属研修の受講率も目標に達していることから、総合評価は「良い」とする。

38. 実務研修の充実（バス）

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の市バス運転士セミナー、事故防止研修の実施回数は、目標を達成している。しかし、成果である優秀職員モニター制度における接遇状況「優」の占める割合は目標に達しなかったことから、総合評価は「普通」とする。

39. 実務研修の充実（地下鉄）

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の地下鉄定期教育訓練の実施回数は、目標を達成している。成果である優秀職員モニター制度における接遇状況「優」の占める割合も目標に達していることから、総合評価は「良い」とする。

40. 基本研修等の充実

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の基本研修の実施回数は、目標を達成している。成果である対象職員の受講率も目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

41. 能力開発研修の拡充と自主研修の支援

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の能力開発研修及び自主研修の講座設定数は目標を達成している。しかし、成果である講座受講率は目標に達しなかったことから、総合評価は「普通」とする。

42. 「目標管理制度」の実施

「目標管理制度」については、平成16年度の実施結果の夏期手当への反映方法等に課題が生じたことから、平成17年度は目標手法等の改善や対象職員の範囲について制度見直しの検討を行っており、対象事業がないため、評価対象外とする。

【考 察】

- 職員研修の充実を図ることは、職員の意識改革につながり、お客様サービスの向上に直結するものである。
- 研修による効果の発現は必ずしも短期間で評価できるものではなく、中長期的に見守っていくことも必要である。
- 能力開発研修については、義務的なものではなく、職員の自主性を尊重していくことが重要であるため、成果目標の設定などの見直しも検討する必要がある。
- 実務研修における接遇状況調査については、接遇が優秀な運転士を表彰する一方、接遇が不良な運転士については厳しい指導を行い、問題がある運転士については処分の対象とするなど、信賞必罰の強化を図っている。
- 「目標管理制度」については、制度見直し中であり、取組は実施していない。

【今後の方向性】

- 引き続き、安全運転やマナー研修等の研修には全員の受講を目指す一方、能力開発研修や自主研修については、職員がどのような研修を望んでいるかニーズの把握に努める。
- 「目標管理制度」に代わる新たな評価制度の導入に向けて検討を行い、「京都市交通事業第2次アクションプログラム」では、業務改善や人材育成を目指した「業績評価制度」を実施することとしている。

20 情報公開と市民理解の推進

…「京都市交通事業アクションプログラム」を策定・実施し、その進捗状況を市民に公開するとともに、交通局所管の事務事業を再点検し、効率化を図る。

【考 察】

- 平成17年度は「アクションプログラム」策定から3年目にあたるが、策定当初（平成15年度）から「アクションプログラム」及びその実施状況を交通局ホームページ上に掲載していることに加え、平成17年度からは、重点施策をとりまとめた「交通局運営方針」も掲載するなど、交通事業についての市民への情報公開と市民理解を推進している。

【今後の方向性】

- 「アクションプログラム」が策定後3年を経過し、相当の進捗が図れたことから、平成18年6月に「京都市交通事業第2次アクションプログラム」を策定し、交通事業の一層の経営健全化を推進している。

21 市民とのパートナーシップの推進

…市民やお客様とのパートナーシップを増進し、利用者の増加を図る。

43.「お客様総合相談窓口」(仮称)の開設	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	コールセンターへの情報提供	情報提供70件	80件	114%	良い
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度		
コールセンターでの受付件数	受付件数200件	208件	104%		
44. 関係NPO組織との懇談	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	関係NPO組織との懇談の実施	懇談の実施(1回)	1回	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	関係部署への周知	関係部署への周知	1回	100%	

43.「お客様総合相談窓口」(仮称)の開設

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の京都市政情報総合案内コールセンター（市全体で平成18年1月から運用開始）に対する情報提供件数については目標を達成している。また成果であるコールセンターでの受付件数についても目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

44. 関係NPO組織との懇談

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の関係NPO組織との懇談の実施については、目標を達成している。成果である関係部署への周知も目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

【考察】

- いずれも市民とのパートナーシップを密にする取組であり、市民ニーズに応えた双方向的なサービスを提供する上で、非常に重要な取組である。

【今後の方向性】

- お客様総合相談窓口については、京都市政情報総合案内コールセンターで市の行政情報をデータベース化し、情報提供を的確かつ一元的に行っている。今後もデータベースへの情報提供を充実させ、お客様の利便性の向上を図っていく。
- 関係NPO組織との懇談については、交通事業全般にわたるものが多くあることから、より効果的な懇談のあり方を検討する。

22 TDM施策の推進

…自動車交通を抑制、分散化させ、公共交通へと転換し、すべての人が安全かつ快適に歩き、移動できる「歩くまち・京都」の実現に寄与する。

	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
45. 「嵐山交通対策研究会」における取組への参加	「嵐山交通対策研究会」会議への出席率	100%(2回)	100%(2回)	100%	普通
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	「嵐山観光地交通対策」期間中に嵐山を運行する系統の延着時分	1.7分	1.8分	94%	
46. 「「歩くまち・京都」交通まちづくりプラン」に基づく取組との連携	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	普通
	「「歩くまち・京都」交通まちづくりプラン」に掲げる交通局取組項目の実施	10項目	10項目実施	100%	
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	市バス・地下鉄の旅客数(一日あたり)	625,819人/日(16年度実績値)	622,570人/日	99%	

45. 「嵐山交通対策研究会」における取組への参加

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の「嵐山交通対策研究会」会議への出席率は、目標を達成している。しかし、成果である「嵐山観光地交通対策」期間中に嵐山を運行する系統の延着時分は、目標に達しなかったことから、総合評価は「普通」とする。

46. 「「歩くまち・京都」交通まちづくりプラン」に基づく取組との連携

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の「「歩くまち・京都」交通まちづくりプラン」に掲げる交通局取組項目の実施については、目標を達成している。しかし、成果である市バス・地下鉄の旅客数(一日あたり)は、わずかながら目標に達しなかったことから、総合評価は「普通」とする。

【考察】

- 両取組とも、京都市基本計画に位置づけられている「歩くまち・京都」の実現につながるものである。
- 地域や商店街の方を中心として組織された会議体である「嵐山交通対策研究会」の取組と連携することは、観光シーズンの嵐山地域における走行環境改善につながり、ひいては市バスの延着時分の削減につながるものである。
- 両取組の成果については、これらの取組だけではなく、京都市の交通政策と交通局の他の利用促進策などが相まって得られたものであることに留意する必要がある。

【今後の方向性】

- 京都市が進めている人や環境にやさしい公共交通優先型の「歩くまち・京都」の実現に向け、交通局としての役割を積極的に担っていく。

23 公共交通の社会基盤整備

…市の各種公共事業等と連携し、公共交通を利用しやすい環境の整備に努める。

47. 道路整備・各種都市計画事業との連携	評価対象事業がないため、今年度は評価対象外とする。
48. 公共施設等の整備との連携	評価対象事業がないため、今年度は評価対象外とする。

47. 道路整備・各種都市計画事業との連携

市の道路整備や都市計画事業の計画部門に対して調査を実施したが、対象事業・対象施設がなかったことから、平成17年度評価は実施していない。

48. 公共施設等の整備との連携

市の公共施設等の設計・管理部門に対して調査を実施したが、対象事業・対象施設がなかったことから、平成17年度評価は実施していない。

【考 察】

- 公共交通の利便性向上のため、転回場など市バスをより利用しやすくするための施設や、公共施設型バスロケーションシステムなど情報提供機器の設置が可能な新規の公共施設整備事業を調査した結果、平成17年度は機器の設置が可能となる対象事業がなかった。

【今後の方向性】

- 今後とも、市バスへの潜在需要を掘り起こすための環境整備に関する調査を行い、より効果的な対象事業を見極めていく。

24 バリアフリー化の推進

…どなたにでもご利用いただける市バス・地下鉄を目指し、市バス・地下鉄の車両及び施設等のバリアフリー化を図る。

	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
49. ノンステップバスの導入	ノンステップバス導入車両数	96両	96両	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	ノンステップバスの導入率	47.2% (354/750台)	47.2%	100%	
	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
50. 停留所施設の改善	建設局との協議の実施	協議実施	協議実施	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	ノンステップバスに対応した改善がされた停留所の合計箇所数	15箇所	24箇所	160%	
	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
51. 地下鉄のバリアフリー化	多目的トイレへの改修駅数	4駅	4駅改修	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	多目的トイレへの改修率	50%	50%	100%	
	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	

49. ノンステップバスの導入

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
	未達成	達成	
	活動量		

活動量のノンステップバスの導入車両数は目標を達成している。成果であるノンステップバスの導入率も目標を達していることから、総合評価は「良い」とする。

50. 停留所施設の改善

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
	未達成	達成	
	活動量		

活動量の建設局との協議の実施は、目標を達成している。成果であるノンステップバスに対応した改善がされた停留所の合計箇所数も目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

5 1. 地下鉄のバリアフリー化

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の多目的トイレへの改修駅数は、目標を達成している。成果である多目的トイレへの改修率も目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

【考 察】

- ノンステップバスの導入車両数は累計で354両（全750両中）、停留所施設の改善は累計で1,285箇所（全1,521箇所中）となっている。
- 市バス・地下鉄をすべてのお客様にご利用いただきやすい施設へと改良することは「京都市交通バリアフリー全体構想」の推進に大きく寄与するとともに、お客様の安全性や利便性の向上につながるものである。

【今後の方向性】

- 市バスのバリアフリー化の推進のため、継続してノンステップバスの導入を拡大するとともに、導入にあわせた停留所施設の改善を行う。
- 地下鉄の視覚障害者誘導ブロックの増設（平成16年度で整備完了）や地下鉄四条駅と阪急烏丸駅の連絡通路への階段昇降機の設置（平成17年度中に整備完了）等は完了したが、引き続き多目的トイレへの改修や、京都駅南口改札前連絡通路のスロープの勾配を改善するなど、さらなるバリアフリー化の実現を図る。

25 市バス車両の低公害化

…バス車両及び燃料の低公害化を図り、大気汚染や地球温暖化等を抑制し、地球環境の保全に努める。また、新技術の導入による低公害型の車両及び代替燃料の普及を促進する。

52. 低公害車・低燃費車の導入	活動量指標1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	低公害車の導入車両数	3両 (天然ガスバス)	3両	3両	100%
活動量指標2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度		
低燃費車の導入車両数	93両(アイドリング・ストップバス)	93両	100%		
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度		
低公害車・低燃費車導入によるCO ₂ 削減量	499.5t削減	499.5t削減	100%		
53. 黒煙等減少装置の導入	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	黒煙等減少装置の装着車両数	5両(DPF)	12両	240%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	排気ガス中に含まれる粒子状物質(PM)の濃度	0.530%低減	1.272%低減	240%	
54. 低公害燃料の使用	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	バイオディーゼル燃料の混合率	20%	20%	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
	バイオディーゼル燃料の使用による軽油削減量	20万ℓ	21万ℓ	105%	

52. 低公害車・低燃費車の導入

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の低公害車の導入車両数も低燃費車の導入車両数も目標を達成している。また、成果である低公害車・低燃費車導入によるCO₂削減量も目標を達成したことから、総合評価は「良い」とする。

53. 黒煙等減少装置の導入

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の黒煙等減少装置の装着車両数は、目標を達成している。成果である排気ガス中に含まれる粒子状物質(PM)の濃度も目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

5 4. 低公害燃料の使用

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量のバイオディーゼル燃料の混合率は、目標を達成している。成果であるバイオディーゼル燃料の使用による軽油削減量も目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

【考 察】

- 低公害車（天然ガスバス）は累計で33両（全750両中）、低燃費車は累計で371両（全750両中）、黒煙等減少装置（DPF）設置車両は累計で40両（全750両中）となっている。
- 市バス車両の低公害化を推進することにより、世界規模で問題となっている地球温暖化の防止につながると同時に、市民の環境保全意識の高まりにもつながっていく。

【今後の方向性】

- 今後も計画に掲げている目標の達成に向けた取組を実施するとともに、更に高い効果を期待できるシステムが普及した際には、新たに取り入れていくことが必要である。
- 平成18年5月から横大路営業所の中型車両2両で、バイオディーゼル燃料100%燃料による走行実験を開始している。

26 地下鉄の安全対策

…火災等の災害発生時における地下鉄駅施設や車両の安全性を確保し、お客様の安全性向上につなげる。

55. 「京都市高速鉄道防火安全対策委員会」の設置	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	駅施設及び車両等に関する安全輸送の確立に向けた取組の実施	1回	1回	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
火災によるお客様への被害件数	0件	0件	100%		
56. 車両間転落防止装置の設置（烏丸線）	活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
	車両間転落防止装置の設置編成数	2編成	2編成	100%	良い
	成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
烏丸線車両全編成(20編成)に対する設置率	100%	100%	100%		

55. 「京都市高速鉄道防火安全対策委員会」の設置

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の駅施設及び車両等に関する安全輸送の確立に向けた取組の実施については、地下鉄関係職員を対象とした定期教育訓練において防火対策に関するマニュアルの徹底を図ったことから、目標を達成している。成果である火災によるお客様への被害件数も1件も起こることなく目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

56. 車両間転落防止装置の設置（烏丸線）

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の車両間転落防止装置の設置編成数は、目標を達成している。成果である烏丸線車両全編成（20編成）に対する設置率も、平成17年度で全20編成に設置を完了し、目標を達成していることから、総合評価は「良い」とする。

【考察】

- 地下鉄をより安全な施設へと改良することはお客様の安全性向上につながるとともに、地下鉄が安全な乗物であるという安心感からさらなる利用拡大へつながることが期待される。

【今後の方向性】

- 防火対策に関するマニュアルの徹底と、設置した装置の適正な保守管理による機能維持に努め、安全性の確保を図っていく。
- 車両間転落防止装置の設置は、烏丸線全編成への設置が完了したため、取組を平成17年度で終了する。（烏丸線に乗り入れている近鉄車両へも、平成18年度に設置される。）

27 地下鉄東西線の延伸

…地下鉄東西線を延伸し、周辺地域と市内中心部間の交通利便性の向上を図る。

57. 地下鉄東西線 (二条～天神 川間)の延伸	活動量指標1	活動量目標	活動量 実績値	活動量 達成度	総合 評価
	土木工事の進捗率	60%	90%	150%	良い
	活動量指標2	活動量目標	活動量 実績値	活動量 達成度	
	軌道工事の進捗率	43%	45%	105%	
	活動量指標3	活動量目標	活動量 実績値	活動量 達成度	
	建築工事の進捗率	(詳細設計の 完成)	詳細設計 が完了	100%	
	活動量指標4	活動量目標	活動量 実績値	活動量 達成度	
	駅設備工事の進捗率	(詳細設計の 完成)	詳細設計 が完了	100%	
	活動量指標5	活動量目標	活動量 実績値	活動量 達成度	
	電力設備工事の進捗率	(詳細設計の 完成)	詳細設計 が完了	100%	
	成果指標	成果目標	成果 実績値	成果 達成度	
	東西線(二条～天神川間) の予定どおりの開通	—	—	—	

57. 地下鉄東西線（二条～天神川間）の延伸

成果	達成	普通	良い
	未達成	悪い	普通
		未達成	達成
		活動量	

活動量の土木工事・軌道工事・建築工事・駅設備工事・電力設備工事の進捗率は、目標を達成している。成果については、東西線（二条～天神川間）を平成19年度中に開通させる予定としており、まだ評価を出せない段階であるため、総合評価は暫定的に「良い」とする。

【考 察】

- 二条～天神川間については、延伸工事が完了し、平成19年度に開通した時点で初めて評価が明らかになるため、それまでは暫定評価を行うこととする。
- 本取組は、都市における重要な大量輸送機関である地下鉄を、より多くの市民の皆様にご利用いただけるようにするものであり、お客様の利便性向上及び利用者数の増加につながるものである。

【今後の方向性】

- 平成19年度中に開通予定の二条～天神川間については、工程の適切な管理と建設費の削減、工事の安全管理の徹底に取り組み、平成20年3月を早め、早期の開通を目指して建設工事を進めていく。